

ぎだやう座

偶数月の
一日・二日は

ぎだやう座

四月公演

二〇二六年 四月一日(水)・二日(木)

【開場】十八時 【開演】十八時三〇分

【一日(水)】

解説…鶴澤津賀花

菅原伝授手習鑑 車曳の段

浄瑠璃 竹本孝之資

三味線 鶴澤 弥々

卅三間堂棟由来

平太郎住家より木遣音頭の段

浄瑠璃 竹本土佐恵

三味線 鶴澤 駒清

【三日(木)】

解説…鶴澤 朔弥

伽羅先代萩 政岡忠義の段

浄瑠璃 竹本 越里

三味線 鶴澤 三響

卅三間堂棟由来

平太郎住家より木遣音頭の段

浄瑠璃 竹本土佐恵

三味線 鶴澤 駒清



【ところ】お江戸上野広小路亭 TEL | 03-3833-1789 (11:00~19:00、不定休)

- ・JR 山手線 御徒町駅北口より徒歩3分
- ・東京メトロ銀座線 上野広小路駅 A4 出口より徒歩1分
- ・都営地下鉄大江戸線 上野御徒町駅 A4 出口より徒歩1分

【入場料】前売 | 2,000 円 18 歳未満 | 1,000 円 当日 | 2,500 円

【お申し込み】(E-mail) jyogi.gidayuza@gmail.com

【お問い合わせ】一般社団法人義太夫協会 TEL | 03-6264-3047 (平日 10:00~17:00)

HP | <https://www.gidayu.or.jp>

【主催】ぎだやう座 【共催】永谷商事株式会社



【1日】

菅原伝授手習鑑 車曳の段

梅王丸・松王丸・桜丸の三つ子の兄弟の父は、菅丞相に恩ある身。菅丞相の流罪により浪人の身となった梅王丸は桜丸と土手で行き逢い、桜丸が丞相流罪の原因となった身の上を歎いていると、藤原時平が吉田の社頭へ大行列でやって来ます。「主の敵」と兄弟は一行を襲い、時平配下の松王丸と車を曳き合うのですが、時平に睨まれ煉み上がってしまいます。父親の祝いの日がすんでから決着をつけようと、その場は別れます。

【両日】

卅三間堂棟由来 平太郎住家より木遣り音頭の段

〈これまで〉紀州三熊野に平太郎お柳夫婦、一子緑丸、平太郎の老母が仲睦まじく暮らしていました。平太郎の留守の間に都から進ノ蔵人が尋ねて来て、以前白河法皇を救ったお柳に褒美を授けます。一方、法皇には頭痛の病があり、霊夢によれば法皇の前世の鬘體が柳の梢にあることが原因で、その柳を切り倒して棟木にし三十三間堂を建てて鬘體を納めると聞きお柳は驚きます。お柳は人間に生まれ変わった柳の木、柳の精だったのです。

柳の木を切る音が聞こえてくるとお柳は苦しみに耐えつつ平太郎に身の上を明かし、法皇の前世の鬘體を渡すと、これを手柄として出世するように言い残し消えてしまいます。切り倒された柳の木を運ぼうとしたところ、誰が曳いても動きません。皆が難渋するところへ、緑丸を連れた平太郎が現れ、緑丸に綱を曳かせて欲しいと頼みます。平太郎の木遣音頭で緑丸が綱を引くと柳は静かに動きだしました。

【2日】

伽羅先代萩 政岡忠義の段

〈これまで〉奥州城主の義綱は、吉原の遊女に入れあげて国を顧みないために隠居を命じられ、幼い鶴喜代君が跡目を継いでいました。しかし、この機に乗じてお家乗っ取りを企てる一味に命を狙われ、鶴喜代君の乳母政岡は、用心のため若君を病氣と称し人々の出入りを制限、我が子千松をお毒味役にし、食事もすべて自らで整えていました。

梶原景時の妻、栄御前は頼朝公からのお見舞いと称し、毒入り菓子を鶴喜代君に食べさせようとします。そこに千松が走り出て菓子を食べてしまいます。千松は毒に苦しみ、それを見た一味は悪事が露見するのを恐れて、千松を刺し殺してしまいます。政岡はお上へ無礼を働いた我が子千松は、成敗されても仕方がないと言って悲しみを押し隠します。栄御前は、あまりに落ち着いた政岡の態度に、鶴喜代が政岡の実子だと信じ込み、一味の企みを打ち明け八汐の働きを褒めて帰り、一人になった政岡は千松の遺骸を抱きしめ悲嘆にくれるのでした。

《お客様へのお願い》

- * 1階入り口で履物を脱いでご入場いただきますので、スリッパなど必要な方はご持参ください。

- * マスクの着用を推奨しております。
- * 37.5℃以上の発熱のある方、それ以外でも咳・痰の症状があるなど体調の悪い方は来場をお控え下さい。
- * 演奏中の許可のない録音・撮影は、お断り申し上げます。